

科目名	総合実習 1							年度	2025		
英語科目名	General Practice 1							学期	前期		
学科・学年	デザイン科	プロダクトデザイン専攻	1年次	必/選	必	時間数	120	単位数	4	種別※	実習
担当教員	佐藤 知美				教員の実務経験	有	実務経験の職種	プロダクトデザイナー			

【科目の目的】

学生がプロダクトデザインの基礎製図を学び、製図規格・用具・製図法・図法・寸法・作例・実例のカテゴリからプロダクトデザインの製図を理解して、社会で活躍するために必要な技術や知識を向上させること、段階的に 図面の概念、図面の種類、製図用具の使い方、線の練習して、三面図の製図ができるようになることを目指す。その基礎を習得し、3Dソフトへの応用を行えることを目標とする。

【科目の概要】

基礎的なプロダクトデザインの製図の技術と3Dソフト、ライノセラスの基礎技術を修得します。これから経験していく仕事の現場で、役に立つ製図の知識と技術を学び、製図用具の正しい使い方と三面図の理解と製図の方法を身に着けるようになります。

【到達目標】

- 目標A 道具の使い方から製図の知識と技術を理解する
- 目標B 三面図の理解と製図の方法を理解する
- 目標C 基本的なライノセラスの操作を理解し活用できる

【授業の注意点】

学生に基礎的なプロダクトデザインの製図から、プロダクトデザインに触れてもらう機会になります。作図の仕方、表現法を知り、今後、現場で求められる3DCADの修得に推移を考えた前段階の実習になります。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル5 優れている		レベル3 ふつう		レベル1 要努力
到達目標 A	道具の使い方から製図の知識と技術をよく理解する		道具の使い方から製図の知識と技術を理解する		道具の使い方から製図の知識と技術を理解できない
到達目標 B	三面図の理解と製図の方法をよく理解する		三面図の理解と製図の方法を理解する		三面図の理解と製図の方法を理解できない
到達目標 C	基本的なライノセラスの操作をよく理解し活用できる		基本的なライノセラスの操作を理解し活用できる		基本的なライノセラスの操作を理解し活用できない

【教科書】

特定の教科書はない。適時、授業に必要な資料配布を行う。

【参考資料】

毎回授業にて資料配布を行う参考資料等は授業中に指示をする

【成績の評価方法・評価基準】

- 理解度 40% 提出課題の内容から、理解の深度を評価する
- 課題完成度 40% 提出課題完成度を総合的に評価する
- 平常点 20% 授業参加度、授業態度によって評価する

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		総合実習 1			年度	2025	
英語表記		General Practice 1			学期	前期	
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価	
1	図面の概念	製図用具の使い方	1	授業説明	授業内容の理解		
			2	製図の必要性	デザインにおける製図の必要性を理解		
			3	道具の名称と使い方	道具の名称と使用方法の理解		
2	線の種類	線の種類を把握する	1	図面の線種	基本的な線の使い方を理解		
			2	線の書き分け	基本的な線の書き分けをする		
3	三面図作成	各種ブロックの三面図を把握する	1	三面図の概念	図面の基本的な作図法の理解		
			2	立体から図面へ	立体物から平面図への変換		
4	三面図作成	各種ブロックの三面図を把握する	1	三面図の応用	図面を理解して形を作る		
			2	図面から立体へ	平面図から立体を立ち上げる		
5	文房具の三面図	文房具を製図する三面図の理解する	1	製品図面	基本的な製品の図面を理解する		
			2	完成図の理解	完成された図面を理解する		
			3	製品構造	基本的なプロダクト製品の構造理解		
6	文房具の三面図	文房具を製図する三面図の理解する	1	製品図面	基本的な製品の図面を理解する		
			2	完成図面	プロダクト製品の完成図を作図		
7	コーヒーカップ三面図	コーヒーカップを製図三面図の理解する	1	製品図面	製品の図面を理解する		
			2	回転体の図面	回転体によるプロダクトの作図方法		
8	コーヒーカップ三面図	コーヒーカップを製図三面図の理解する	1	製品図面	製品の図面を理解する		
			2	回転構造の理解	回転体によるプロダクトの構造理解		
9	コーヒーカップ三面図	コーヒーカップを製図三面図の理解する	1	製品図面	製品の図面を理解する		
			2	完成図面	プロダクト製品の完成図を作図		
10	図面	まとめ	1	図面のまとめ	図面の基本と製図方法の理解、確認		
			2	図面の必要性	プロダクトデザインにおける図面の必要性を理解		
			3	実戦での図面の活用	デザイン工程の中での図面の位置付けを理解		
11	ライノセラス基礎	3Dソフトの位置付け機能	1	3Dソフト、CAD	3Dソフト、CADとその周辺の位置付けを理解		
			2	ライノセラスとは	ソフトの位置付け、特性を理解		
			3	ライノセラス活用方法	デザインの実戦としての活用方法		
12	ライノセラス基礎	基本操作、ソフトの特徴、線と面と個体の理解	1	基本操作	ライノセラスの基本操作を理解		
			2	ライノセラスの概念	3D世界の中の概念を理解		
			3	線と面と立体	基本的な作製ツールを理解する		
13	ライノセラス基礎	基礎モデリング	1	インターフェイス	画面内の機能説明		
			2	操作の基本	基本的な操作方法		
14	ライノセラス基礎	基礎モデリング	1	立体の作成	基礎モデリングとして立体物を作製		
			2	回転体の作成	回転体の制作方法		
15	ライノセラス基礎	まとめ	1	作図から3D化	自分で作図した図面をライノセラス上で立体化する		
			2	ロボットの作製	完成された立体物の作製		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他  
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった  
備考 等